

## 志和町の地域おこし協力隊員 伊藤かおり からの報告(最終回)

平成から令和へと変わる時代の節目を迎えた令和元年の7月、志和町の地域おこし協力隊員に着任しました。自然が豊かで農家さんが頑張っておられる志和町に魅了され、先輩隊員の森口美優さんと出会ったことで、「一緒に志和を盛り上げていけたら」と強く思うようになったことがきっかけでした。志和町の協力隊員としての活動は、長らく暮らしていたフィレンツェでは養蜂のお手伝いもしていた経験を生かして、「日本ミツバチの養蜂を軸とした地域活性化事業」を主なテーマとしました。

着任して1年目は、志和町内の方々との交流（各種会合への出席、各種イベントへの参加、お料理教室の開催）を通して地域の方々の声を聞くとともに、日々の様々な場面でご助言をいただけるような繋がりを地域の方々との間に作る事ができました。加えて、巣箱の準備、巣箱設置場所の確保、待ち受け巣箱の設置、近隣の養蜂家の方々との交流に取り組みました。また、休耕田での蜜源植物の栽培にも町内の方々のご協力をいただきながら挑戦しました。こうした取り組みの結果の一つとして、令和2年の4月には、近隣の方のご協力を得て日本ミツバチを一群分けていただくことができました。蜂群は順調に成長して、協力隊員としての1年目が終わる6月には分蜂群を2群捕獲することができました。

協力隊員としての2年目の9月には、飼育中の一群が初の採蜜ができるまでに成長し、「西志和まちづくり自治協議会・地域づくり部会」に主催いただいて志和生涯学習センターにて「採蜜見学会」を開催することができました。また、「ミツバチのお話会」や「巣箱作りの見学会」を開催したり、休耕田での蜜源植物の蕎麦の種まきと収穫のお手伝いや、「蜜源茶」の製作と普及に取り組んだりもしました。さらに、新型コロナの影響でお料理教室ができなくなる中、地域の方々との交流の場として、お香作りのワークショップを開催し、参加者の方々とお香作りを楽しみながら活動の報告を行ったりもしました。ところが寒さの厳しい冬場に飼育中の蜂群がダニの発生により全滅してしまいました。こうした活動を通じて、地域で日本ミツバチが減っていることへの危機感や、地域環境の保全におけるミツバチの受粉媒介の大切さと町内で蜜源植物が増えることの重要性を強く認識するようになりました。春には近隣の方々のご協力を得て蜂群を譲っていただき、養蜂を再開できました。（裏面につづく）



第一回「採蜜見学会」での様子



西志和の蕎麦畑と蕎麦の花を訪花する日本ミツバチ。  
この素敵な景観がいつまでもいつまでも続きますように。

協力隊員としての3年目の9月には「西志和まちづくり自治協議会・地域づくり部会」主催第二回「採蜜見学会」を開催することができました。この年の冬も厳しい寒さでしたが、飼育中の蜂群の越冬に成功しました。採取したミツロウを使ったハンドクリーム作りのワークショップの開催もできました。また、令和4年の3月で閉校となった東志和小学校と西志和小学校では「養蜂と環境保全」をテーマとした授業をさせていただきました。合わせて、「ミツバチの受粉媒介と環境保全の大切さ」を小学4年生向けに分かりやすく説明する冊子を作成しました。ミツバチの受粉媒介の重要性の観点から、町内の多くの方々に養蜂活動を応援していただいています。令和4年の4月からは、西志和住民自治協議会が中心となって志和町を日本ミツバチが住みやすい里にしようとの活動もはじまっています。

この6月で3年間の任期を終えて、志和町の地域おこし協力隊員を卒業いたします。この間、数々の励ましのお言葉をいただいたり、巣箱を置く場所を提供していただいたりなど、町内の様々な方々に様々な形でご支援をいただきました。今はただ感謝の気持ちでいっぱいです。3年間、本当にありがとうございました。今後は志和町の住民として、地域の方々とのご縁をさらに広げていけると願っております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



採蜜した後の巣をミツロウに精製して  
手作りハンドクリームも！



「ミツバチの受粉媒介と環境保全の大切さ」を  
小学4年生向けに分かりやすく説明する冊子